

第9回世界健康安全保障イニシアティブ（GHSI）閣僚級会合 概要

日時 平成20年12月5日
場所 ブリュッセル（ベルギー）
参加者 小田野欧州代表部特命大使
谷口厚生労働省技術総括審議官 他
日、米、カナダ、英、仏、独、伊、メキシコ、欧州委員会（EC）
WHO（オブザーバー参加）

成果

- リスクコミュニケーションに関する意見交換
- 共同宣言の採択
- 次回の閣僚級会合開催の決定：2009年12月、ロンドン（英国）

議論内容

（1）ヴァシリウ欧州委員の開会挨拶及び各国代表による発言

EC：ECは健康安全保障上の共通の課題に向けた国際的な協力の強化に貢献していく。これまでになく世界各国の結びつきが強まる中、CBRN（化学、生物、放射性物質、核）、パンデミックインフルエンザ、また食品の安全性などより一般的な公衆衛生上の脅威に対する国際的な警報と対応システムの強化に向けて、参加国が密接に協力していくことが重要である。GHSIの成果を具体的に共有するとの観点から、欧州委が2010年に予定している対パンデミックインフルエンザの演習に、参加国を招待する。この機会を通じ、各国は、国際的な危機という環境下において、そのリスクコミュニケーションシステム等を実際に試すことが期待できる。

仏：議長国として開催したアンジェの非公式保健相会合において、新型インフルエンザ対策のシミュレーションを実施し、大きな教訓を得た。

英：パンデミックインフルエンザ等国際的な課題への対応においては、セクター間、国家間の協力が必要であり、戦略の迅速な共有が重要。

メキシコ：従来からの米、加との協力に加え、中米における協力関係を主導した。

独：GHSIによるパンデミック対策等に係る国際協力のおかげで、作業が効率化され感謝している。

カナダ：GHSIの8年間の成果として、加盟国間の協力と信頼が醸成されたことが大きい。

米：CBRN 分野の国際協力は重要であり、引き続き新政権の下でも GHSI に参加し続ける。

伊：検体共有やワクチン備蓄などで国際的な協調戦略が重要である。

日：CBRN の脅威に加え、食品の安全等の一般的な公衆衛生上の課題においても国際的な連携の重要性が増している。

WHO：GHSI の協力体制を国際協力の先端事例として国際社会に還元していきたい。危機においては、医薬品へのアクセスが重要となる。本会合の共同宣言において、インフルエンザウィルス検体の共有問題に言及する方向であるのは望ましい。

(2) 優先的課題と成果の検討

各分野について、GHSAG 議長からの報告を踏まえ、以下の討議が行われた。

- ・ 実験施設ネットワーク（ラボネット）（GHSAGLN）
炭疽菌のような危険な細菌の診断に向けた協力の強化について報告された。
- ・ パンデミックインフルエンザ WG（PIWG）
空港でのスクリーニング等、各国の国境管理政策の状況（科学的知見のほか地理的、文化的な要素も影響し、各国のスタンスが異なる。）について議論された。
- ・ 化学イベント WG（CEWG）
有害な産業化学物質への対策の強化について報告された。
- ・ 核・放射線源の脅威 WG（RNWG）
核・放射線源の脅威に対する国際的なネットワークの強化について報告された。
- ・ 危機対策等の医薬品の使用期限
緊急時に使用する医薬品のうち、通常の医療現場では使用されない医薬品（放射線源の体外排出薬や毒物を中和する薬等）の開発のための情報共有と、備蓄をする場合の使用期限に関する科学的知見の共有を進めていくこととなった。
- ・ インフルエンザウィルス検体共有問題
GHSI として本問題を重用視し、迅速な検体共有が速やかに再開されることを求めていくこととなった。

(3) リスクコミュニケーション

リスクコミュニケーターズネットワーク（RCN）議長及び PIWG 議長からの報告の後、国境管理施策がメンバー国間で異なることについて討議が行われた。メディアの国際化等を受け、対応が複雑化しており、各国が協調して、整合の取れた明確な広報を行うことが必要であることが確認された。